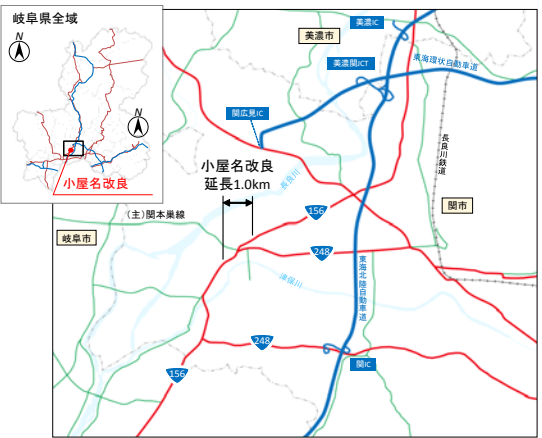
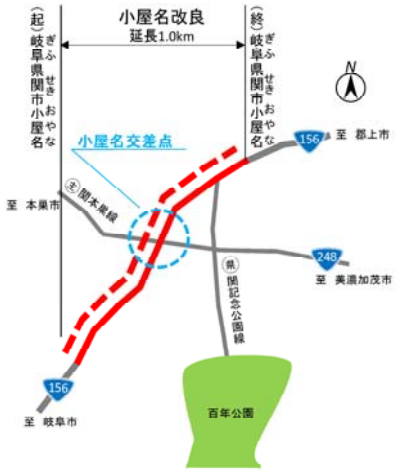


事後評価結果（平成26年度）

担当課：中部地方整備局 道路部 道路計画課
担当課長名：糸野 真一郎

事業名	一般国道156号 小屋名改良	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中部地方整備局				
起終点	自：岐阜県関市小屋名	至：岐阜県関市小屋名	延長	1.0 km					
事業概要 一般国道156号は、岐阜県岐阜市から富山県高岡市に至る延長約210kmの幹線道路。 小屋名改良は、岐阜県関市小屋名において、踏切除却等による延長1.0kmの改良事業であり、平成21年度に完成。									
事業の目的・必要性 一般国道156号小屋名改良は、小屋名交差点の交通渋滞の緩和、交通安全性の向上を目的とした事業。 ※平成17年4月に名鉄美濃町線が廃線となり、交通状況の変化を踏まえ、4車線計画から2車線計画に見直し。									
事業概要図 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>									
事業の効果等	事業期間	事業化年度	S49年度	用地着手	H4年度	供用年	(当初) - / H20年代前半	変動	- 倍
		都市計画決定	S49年度	工事着手	H9年度	(暫定/完成)	(実績) - / H22年度		
	事業費	計画時	(名目値) - / 57 億円	実績	(名目値) - / 56 億円			変動	0.98倍
		(暫定/完成)	(実質値) - / 59 億円	(暫定/完成)	(実質値) - / 58 億円				
	交通量	計画時	- / 23,000~40,000台/日	実績	- / 21,300台/日			変動	0.53~0.93
		(当該路線)	(暫定/完成)	(暫定/完成)	(暫定/完成)				
	旅行速度向上	33.9	→	45.0 km/h	交通事故減少	5.6	→	0.75 件/年	
		(供用前現道→当該路線)	(供用前年次) H17年	(供用後年次) H25年		(供用前現道→当該路線)	(供用前年次) H17~21年	(供用後年次) H22~25年	
	費用対効果分析結果 (当初)	B/C	2.5	総費用	66 億円	総便益	163 億円	基準年	平成 19 年
				(事業費: 62 億円)		(走行時間短縮便益: 160 億円)			
				(維持管理費: 4.7 億円)		(走行経費減少便益: 2.8 億円)			
						(交通事故減少便益: 0.5 億円)			
	費用対効果分析結果 (事後)	B/C	1.1	総費用	91 億円	総便益	104 億円	基準年	平成 26 年
				(事業費: 88 億円)		(走行時間短縮便益: 99 億円)			
				(維持管理費: 3 億円)		(走行経費減少便益: 4 億円)			
						(交通事故減少便益: 0.4 億円)			
	事業遅延によるコスト増	費用増加額		-		便益減少額	-		
				- 億円			- 億円		
事業遅延の理由						特になし。			
客観的評価指標に対応する事後評価項目						①円滑なモビリティの確保			
						・現道等の年間渋滞損失時間（人・時間）の削減			

	<ul style="list-style-type: none"> ・現道等における混雑時旅行速度が20km/h未満であった区間の旅行速度の改善 ・当該路線の整備によるバス路線の利便性向上の状況 ②国土・地域ネットワークの構築 <ul style="list-style-type: none"> ・日常活動圏の中心都市へのアクセス向上の状況 ③個性ある地域の形成 <ul style="list-style-type: none"> ・主要な観光地へのアクセス性向上による効果 ④安全で安心できるくらしの確保 <ul style="list-style-type: none"> ・三次医療施設へのアクセス向上の状況 ⑤安全な生活環境の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・歩道が無い又は狭小な区間に歩道が設置されたことによる安全性向上の状況 ⑥災害への備え <ul style="list-style-type: none"> ・対象区間が、都道府県地域防災計画、緊急輸送道路ネットワーク計画又は地震対策緊急整備事業計画に位置付けがある、又は地震防災緊急五ヶ年計画に位置付けのある路線としての位置づけあり。 ⑦地球環境の保全 <ul style="list-style-type: none"> ・対象道路の整備により削減される自動車からのCO2排出量 ⑧生活環境の改善・保全 <ul style="list-style-type: none"> ・現道等における自動車からのNO2排出削減率 ・現道等における自動車からのSPM排出削減率 ⑨その他 <ul style="list-style-type: none"> ・小屋名交差点の交通事故件数が減少
	<p>その他評価すべきと判断した項目</p> <p>特になし。</p>
事業	<p>環境影響評価に対応する項目</p> <p>環境影響評価は実施していない。</p>
変化	<p>その他評価すべきと判断した項目</p> <p>特になし。</p>
<p>事業評価監視委員会の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の効果が発現しており、当該事業に関しては今後の事後評価及び改善措置等は必要ないとした事業者の判断は妥当である。 	
<p>事業を巡る社会経済情勢等の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成17年に名鉄美濃町線が廃線。 ・平成20年の国道248号バイパスの部分開通により、国道248号現道の交通がバイパスに転換し、美濃加茂市方面から国道156号（小屋名交差点）を經由し、岐阜市方面へ向かう交通が減少。 	
<p>今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般国道156号小屋名改良は事業が完了しており、整備目的どおりの効果が発現していることから、2車線整備における今後の事後評価の必要はないと考える。 ・一般国道156号小屋名改良は、整備目的を達成していると判断できるため、2車線整備における改善措置の必要はないと考える。 ・今後は、現地の交通状況を踏まえ、必要性に応じて4車線化を検討。 	
<p>計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般国道156号小屋名改良は当初の整備目的どおりの効果を確認していることから、同種事業の計画 ・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性はないと考える。 	
<p>特記事項</p> <p>特になし。</p>	

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。